



新たに始まった子育て支援 頼もしい助っ人がうかがいます

すこやか応援隊



2003年4月に発足した「すこやか応援隊」は、育児に疲れを感じたときや困ったときに、一人がかえこんでつらくならないよう、お母さんやお父さんなどいっしょに子育てをしていく心強い味方です。窓口は市役所内にあり、保育士3人、看護師、栄養士の計5人が電話で相談を受け、希望に応じて訪問もしています。

また、地域のかたへの遊びの提供などを、保育園と一緒に取り組んでいます。なかでも訪問相談は、これまでにない画期的な試み。「電話で話すだけでは分からないことでも、お宅に

訪問してお母さんと赤ちゃんを見ると悩みの原因が見つかることがあります。疑問に思ったことは何でも聞いて欲しい。みな、顔が違うように、赤ちゃんの成長も一人ひとり違っています。「うちの子は他の赤ちゃんとは違う」と不安がらないで」と栄養士の佐藤博美さんは語ります。



市役所1階にあるすこやか応援隊の窓口。

個別訪問では離乳食を一緒につくってみたり、実際に赤ちゃんの様子を見ることがお母さんの抱える問題解決の糸口を探す。



実際に保育園で働いていたスタッフがそろっているから、安心して相談できる。



子育てサークルに講師として招かれた栄養士の佐藤博美さん。赤ちゃんを連れたお母さんたちは、離乳食の説明に熱心に耳を傾けている。



低公害自動車が続々導入 新しいBook Mobilも天然ガス車に

進む、庁用車の低公害化

自動車図書館「Book Mobil」がグリーン車の車体に白の図案をあしらった新車両にリニューアルしてお目見えしました。



新しくなった自動車図書館。満タンにすると200キロメートルほど走行できる。

これは、2003年4月に施行された千葉県ディーゼル車排出ガス対策条例に伴うもので、従来のディーゼル車から、圧縮天然ガス（CNG）を走行燃料とするクルマになりました。

CNGは光化学スモッグや酸性雨の原因となる窒素酸化物の排出量が少なく、地球温暖化で問題とされている二酸化炭素の排出量もガソリン車に比べ2～3割も軽減する、地球環境に配慮されたエネルギーです。

市川市では、ゴミ収集車をはじめとした庁用車の低公害化を

ゴミ収集車にも圧縮天然ガス（CNG）を使用。



他に先駆けて進めてきた結果、2003年3月末時点で天然ガス車の導入台数は43台と県内で1番になっています。2005年度までには、ディーゼル庁用車を低公害車化する計画です。

天然ガス車は、「エンジン音も静かで、イヤな臭いもなくなった」と評判は上々です。



「お願い」、「ありがとう」が言える 住み良いまちづくり

エコマネー（地域通貨）“コウ”

自分たちの地域の問題は、自分たちが主役になって解決していこうという地域ケアシステムの一環として、新たな試みが始まりました。市川市社会福祉協議会国府台支部では、思いやりと支えあいの気持ちのエコマネー“コウ”を発行して反響を呼んでいます。

会員それぞれが、買い物や犬の散歩、話し相手など「できること」をサービスメニューとして登録。サービスを受けた人はお礼として“コウ”を、「ありがとう」の言葉とともに渡します。受け取った“コウ”は、別の誰かにサービスを依頼することで流通させます。

実際に交換してみると、「会話をするきっかけになった」「たくさんの人を知ることができた」と好評です。エコマネーをきっかけに、気軽に声をかけ合い助け合える住みよい地域を目指して、市や社会福祉協議会では今後もエコマネーが市内に広がるよう応援していきます。

縁側で一緒にお茶を飲みながら“話し相手になる”。盛り上がる、楽しいひととき。



“一緒に買い物へ行く”もメニューの一つ。「カゴは持つわね。ワインは店員さんに相談しようよ」。



「今日は来てくれてどうもありがとう」。国府台のエコマネーは感謝の気持ちを表す温かいお金。